情報掲示板

家族で、地域で、ぜひ、ご参加ください　防災講演会

１月17日は、「防災とボランティアの日」、１月15日～21日までは、「防災とボランティア週間」です。

これは、平成７年１月17日に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに、ボランティア活動や市民の自主的な防災活動の普及のため制定されました。

彦根市では、この期間中に防災講演会を開催します。災害発生時に被害を最小限にするための自主防災組織の活動や、自分たちができるボランティア活動など、地域の防災活動の参考にしてください。多くの市民の皆さんの参加をお願いします。

日時　平成20年１月18日㈮　13：10～16：00
場所　ひこね市文化プラザ　グランドホール
内容

講演①
「防災と市民力」
（防災福祉の視点から）
講師　立木茂雄さん
（同志社大学社会学部教授）

講演②
「防災と地域力」
（災害救援NPOの現場から）
講師　栗田暢之（のぶゆき）さん
（NPO法人レスキューストックヤード　代表理事）

その他　手話通訳、要約筆記、補聴器磁気誘導ループあり
申込方法・問い合わせ先　電話、ファクス、はがき、Eメールで、氏名、住所、電話・ファクス番号を書いて、㊢総務課☎30-6100、FAX22-1398、Eメール：somu@ma.city.hikone.shiga.jpまで

おわびと訂正

広報ひこね11月15日号４ページの「舟橋聖一顕彰文学賞」に関する記事のなかで、青年文学賞の佳作の作品名が「トマトの木」とあるのは、「真夜中のホウコウ」の誤りでした。おわびして訂正します。

について

たにおり

どちらかに○をしてください
私の意見を（ 公表してよい・公表しないでほしい ）

住所			
氏名			
電話番号		性別	□男 □女
年齢	□20歳未満 □40歳代	□20歳代 □50歳代	□30歳代 □60歳以上

笑顔と幸せをみんなで分かち合おう

～ともに生きるあたたかいまち彦根～

12月3日～9日は障害者週間です

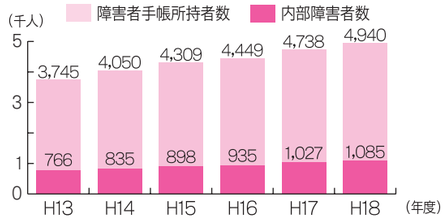
㊢障害福祉課☎27-9981番、FAX26-1767番

12月3日～同9日は障害者週間です。障害がある人や障害福祉についての関心と理解をいっそう深めるための一週間です。

平成19年3月末現在、彦根市の障害者手帳の所持者は約5,000人です。その数は年々増加しています（グラフ）。障害についての理解は、徐々に広がっていますが、周囲の理解不足から、障害のある人に不利益が生じたり、じゅうぶんな支援が得られなかったりすることが、いまだに見られます。すべての人が快適に生活できる社会を実現するために、障害のある人のことについて、今一度考えてみましょう。

知的障害や精神障害など、外見上分かりにくいとされている障害はいくつかありますが、ここでは、体内の障害である内部障害について紹介します。

障害者手帳所持者数の推移



見えないハンディキャップ　内部障害

心臓機能障害や腎臓機能障害などの内部障害には、進行性の病気を伴っている場合もあり、多くの人が、体力低下や体調面での不安を抱えています。

体調が悪いと、普段は普通にできることもできなくなります。また、病院への通院や食事療法など、自己管理の面においても、周囲の人には分からない苦労があります。

さらに、内部障害は、外見からは障害を持っていることが分かりにくいため、公共交通機関の優先座席の利用などで、障害に対する周囲の理解が得られないことがあります。

内部障害には次のような障害があります。

心臓機能障害　動悸（どうき）や息切れが起こることがある。体力が低下して、疲れやすく、風邪も引きやすい。

腎臓機能障害　体力低下や体調の変動を伴うことが多く、風邪などに感染しやすい。

呼吸器機能障害　慢性的な呼吸困難、息切れなどがある。

ぼうこう・直腸機能障害　排せつ機能の障害。人工肛門、人工ぼうこうがある人が多い。

小腸機能障害　消化吸収が困難で、食事制限があるか、もしくは食べることが出来ない。

ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能障害　免疫機能が低下し、健康な人ではかかりにくい病気にもかかりやすい。

このマーク見たことありますか

下の図1は、駐車場やトイレでよく見かけるマークです。「車いす使用者だけが使用できる」と誤解されがちですが、このマークは、内部障害も含めた障害のあるすべての人が利用できる建物や公共輸送機関であることを示しています。

図2は、オストメイト対応トイレであることを示すマークです。オストメイトとは、大腸やぼうこうの病気のため、人工ぼうこう、人工肛門がある人のことです。これらの人は、通常のトイレでは排泄の処理が困難なため、専用のトイレが必要です（写真1）。このトイレには、※ストーマ装具を交換できるスペースや、ストーマ周辺の皮膚を拭くための設備などがあります。オストメイト対応トイレは、市内では、市立病院、JR各駅、市役所などにあります。

図3は、「ハート・プラス」といって、身体の内部に障害や疾患があることを、周囲の人々に知らせることを目的としたマークです。

※ストーマとは人工肛門、人工ぼうこうに伴う排泄口です。ストーマ装具はこれにつける排泄管理用具のことです。

障害者に関するマーク

図1

図2

図3

写真１　オストメイト対応トイレ

ともに生きるあたたかいまち彦根をつくるために

内部障害や知的障害、精神障害は、外見上わかりにくい障害です。私たちは、障害の種類は多種多様で、障害は誰にでも生じる可能性のある身近なものだということを認識することが必要です。

彦根市を私たちにとって住みよいまちとするためには、障害のある人もない人も、お互いが区別されることなく、社会生活をともにするというノーマライゼーションの考え方に基づき、私たち一人ひとりがさまざまな障害について正しく理解し、身近なところから実践していきたいものです。